

# 宮崎県気候変動適応センター通信 第32号

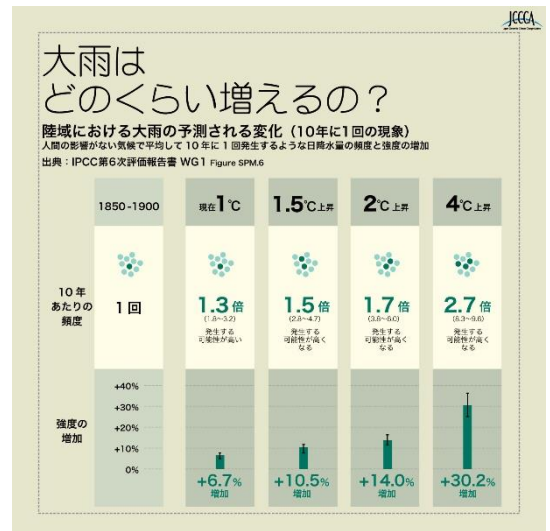
## IPCC 第6次評価報告書について～降水量と海面水位の現状と将来予測～

2021年8月、気候変動に関する政府間パネル(IPCC)の第1作業部会(自然科学的根拠)から第6次評価報告書が発表されました。今回は前回に引き続き、その概要についてお知らせします。

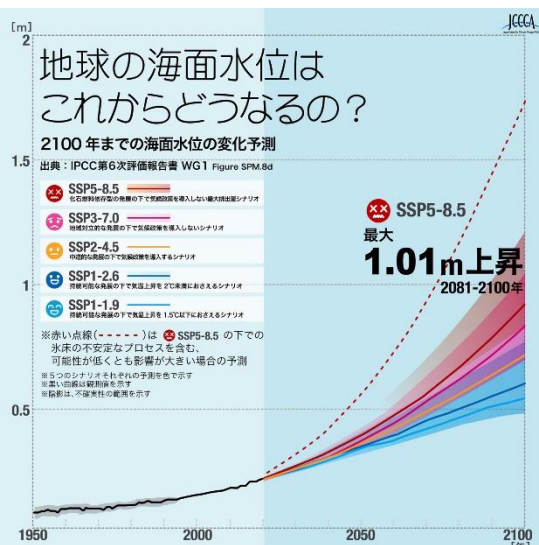
※IPCCとは、国際的な専門家で作る、地球温暖化についての科学的な研究の収集、整理のための政府間機構。

### 降水量の現状と将来予測

- 陸域の平均降水量は1950年以降増加しており、1980年代以降はその速度が上昇しています。
- 陸域のほとんどで1950年代以降に大雨の頻度と強度が増加し、強い台風の発生割合は過去40年間で増加しています。
- 今世紀末(2081～2100年)の年平均降水量は、1995～2014年と比べて、**最大で13%増加する**と予測されています。
- 世界規模では地球温暖化が**1℃進行するごとに、極端な日降水量の強度が約7%上昇する**という予測もなされています。



出典) 全国地球温暖化防止活動推進センターウェブサイト (<https://www.jccca.org/>)



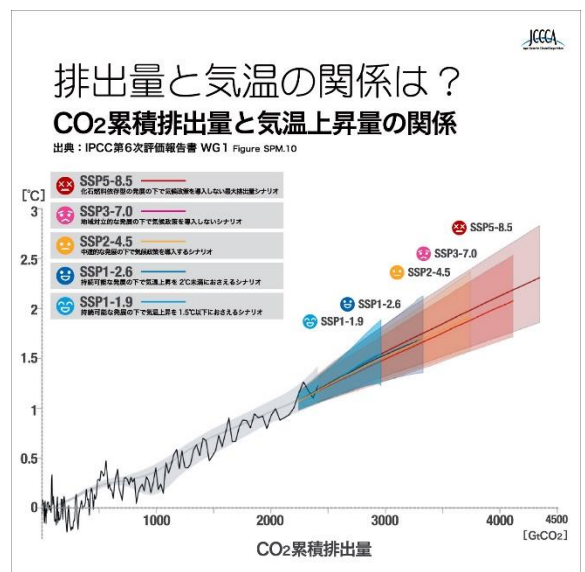
出典) 全国地球温暖化防止活動推進センターウェブサイト (<https://www.jccca.org/>)

### 海面水位の変化

- 世界の平均海面水位は1901～2018年の間に約0.20m上昇しました。
- 2100年までの世界平均海面水位上昇量は、1995～2014年と比べて、**0.28～1.01m上昇する**と予測されています
- 気温上昇は止まることがあっても、その後も海面水位は上昇を続けると報告されており、今後2000年の間に海面水位は最大22メートル上昇する可能性があるとしています。

### CO<sub>2</sub>の累積排出量と気温上昇幅の関係

- CO<sub>2</sub>の累積排出量と気温上昇量の変化は、ほぼ比例関係にあると報告されています。つまり、気温上昇上限から総累積排出量の上限が決まるということです。
- 産業革命以降、CO<sub>2</sub>は約2兆4000億トン排出されており、工業化前からの気温上昇を1.5℃に抑えるためには、残りの排出量上限はあと4000億トンであることも示されました。また、**気温上昇をあるレベルで止めるためには、CO<sub>2</sub>累積排出量を制限し、少なくとも正味ゼロ排出を達成し、他の温室効果ガスも大幅に削減する必要がある**、としています。



出典) 全国地球温暖化防止活動推進センターウェブサイト (<https://www.jccca.org/>)